

2021年3月16日
〈プレスリリース資料〉

「草の根・人間の安全保障無償資金協力」

サンパウロ州

「アラサツーバ市精神病院マイクロバス整備計画」に係る
草の根・人間の安全保障無償資金協力の報告式について

在サンパウロ日本国総領事館

3月9日(火)午前11時00分より、「アラサツーバ市精神病院マイクロバス整備計画」に係る「障害者養護団体ヒッチーニャ・プラッテス」(以下、ヒッチーニャ・プラッテス)への我が国の草の根・人間の安全保障無償資金協力の報告式をオンライン形式にて実施しました。式典には、ヴァニウダ・マリア・バルボーザ・ヒッチーニャ・プラッテス理事長、桑名良輔在サンパウロ日本国総領事、他約10名が出席しました。

バルボーザ理事長からは、「これまでは車両が1台しかなかったため、入院患者の外出機会が限られていたが、今回供与されたバスにより、外部での診療やセラピー等の参加機会を増加させることができる。現在はコロナ禍で外部での診療等は出来ないが、代わりに入院患者をバスに乗せて市内の散策を行う等入院患者のリハビリと気分転換に役立っている。日本国政府とこれまで支援を頂いた全ての方々に感謝する。」と謝辞を述べました。

これに対して、桑名総領事からは、「日本は人間の安全保障の観点から長年にわたり恵まれない人々のために支援を行なっており、本件もその一環である。コロナ禍収束後は、このバスが患者さんの社会経済活動への復帰のためにフルに活用されることを期待する。」と述べました。

●案件の基本情報

案件名:アラサツーバ市精神病院マイクロバス整備計画
被供与団体:障害者養護団体ヒッチーニャ・プラッテス
プロジェクト実施地:サンパウロ州アラサツーバ市
契約書署名日:2020年1月29日
供与限度額:88,491米ドル
供与品目:車椅子昇降付きマイクロバス1台

●案件概要:

1. ヒッチーニャ・プラッテスは、1977年にサンパウロ州アラサツーバ市において設立され、アラサツーバ市及び周辺約40の市の精神障害及び身体障害を持つ患者の治療や社会復帰支援を無償で行っている団体です。

2. 同団体は、治療や社会復帰支援を目的として、入院患者を外部診療やセラピー等に参加させています。入院患者の約8割は車椅子を使用していますが、これまでは、同団体が所有する車椅子移送車は1台のみであったため、入院患者の外部診療やセラピー等への参加機会が限られていました。
3. 本件協力により、同団体に対し、車椅子昇降付きマイクロバス1台(車椅子6台収容)を供与しました。供与されたマイクロバスが、入院患者の外部診療やセラピー等への参加機会を増加させ、同市及び周辺地域の障害者の治療や社会復帰支援に寄与することが期待されます。

(問合せ先) 在サンパウロ日本国総領事館経済班
(0xx11)3254-0100

【供与されたバス】





写真は左から

ヴァニウダ・マリア・バルボーザ・ヒッチーニャ・プラッテス理事長
オスカル・ファリア・ラモス・ヒッチーニャ・プラッテス法律顧問
白石一資・アラサツーバ日伯文化協会副会長
本田ヒデト・アラサツーバ日伯文化協会会長